

日吉台地下壕保存の会

# 会 報

第28号

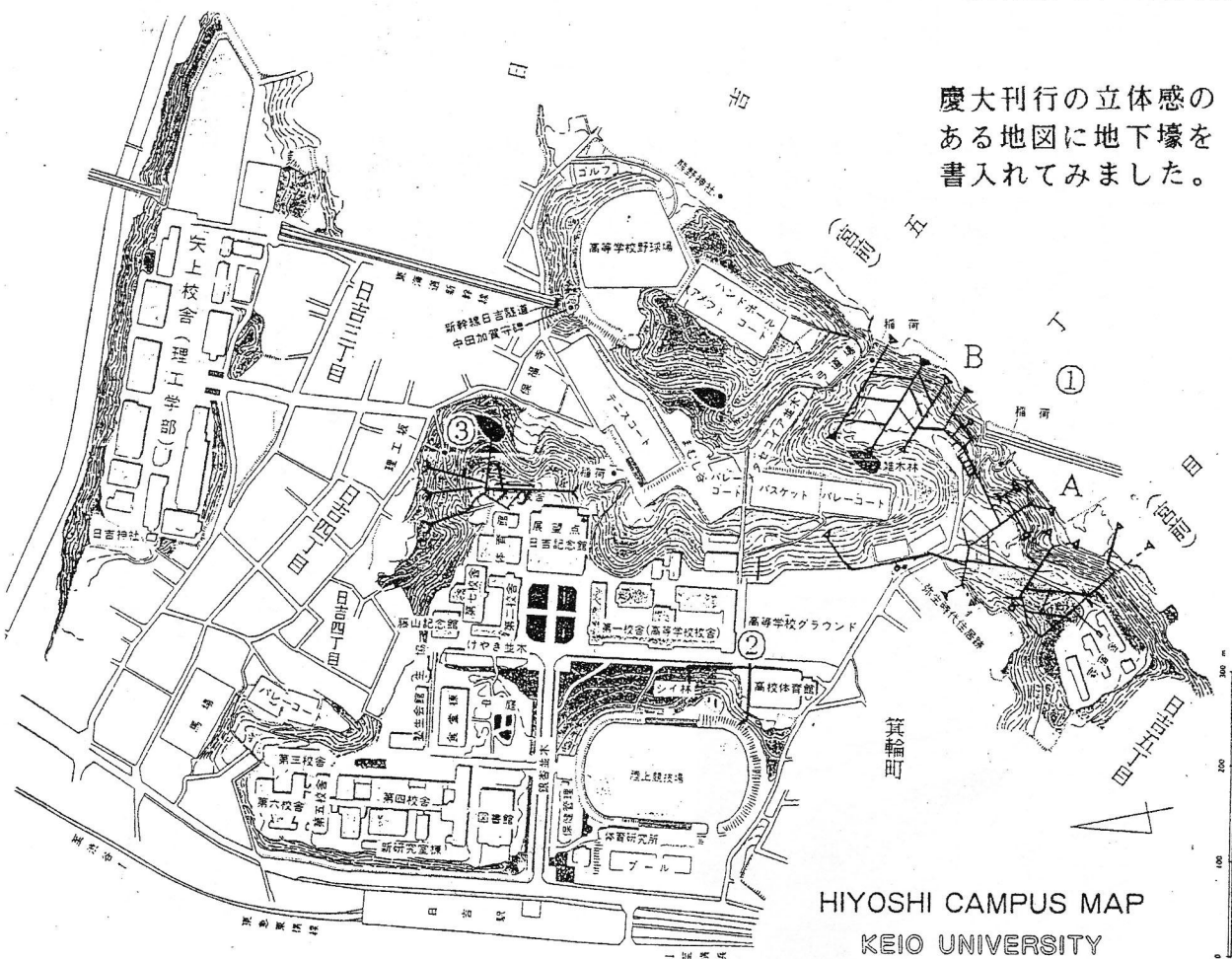
発行 日吉台地下壕保存の会  
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上  
郵便振込(口座番号)横浜 5-74921  
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

慶大刊行の立体感のある地図に地下壕を書入れました。



目次	ページ
目の鱗を落としてこそ	2
新聞記事二題	3
日吉台地下壕保存の会 第6回総会	4~6

連載日吉台地下壕 当時の関係者の思い出話	5 7
幹事会報告	7~8
お知らせ	8
何か書いてみませんか	8



## 新聞記事一題

少々古い記事になりますが、保存の会と関連がありますので、ご紹介します。



## 大倉山記念館

## 戦争展を見て

無職 山口 勇雄 77

小春日和の大倉山記念館は、町の騒音から開放され、別世界のようなだった。館内は「平和のための戦争展」が開幕していた。

今から五十年前、港北区日吉の日吉台に位置する連合艦隊司令部の地下壕（こうごう）の跡地の写真展である。

厚さ四十センチのセメントに

覆われた五<sup>五</sup>に及ぶ壕内。敗戦の色濃くなつたころは、ここから海軍の作戦指令が出されていた、という。地下壕の掘削には苛酷な労働が強いられ、強制的に朝鮮人労働者が二十四時間昼夜兼行の三交代で働き、一番危険な所を掘らされた、という。

食事也十分に与えられていなかったというから、さながら地獄のような光景であつたろう。いつもながら戦争の悲惨さは言葉には言い表わせない。裏腹に、完成後の壕内には物質の貯蔵は豊富で、指揮官の食事は三食、ワイン付きと、当時の私たちの食生活には到底考えられないものだった。

「平和の素晴らしさを確認するために、戦争の真相

をしつかり見つけていきたい」の言葉が印象的だった。

（横浜市港北区鳥山町）

神奈川新聞

九四年三月七日

## 天声人語

戦時中の大本営の防空壕に入ってみた。外は暑いのに中はひんやりとしている。ずいぶん立派な地下壕である。地表から一四尺、夏も冬も、ほぼ同じ温度だという。広さ千二百平方尺余の、地中の本丸である▼ここから様々な指令や発表文が出されたのか……。歴史的な場所に立つ時に特有の、独特の感慨を催す。厨房や貯水槽の跡が残っている。地下水を使つたのだらう。東京は市谷本村町の、いわゆる市ヶ谷台。その昔、尾張徳川家の

上屋敷があつた。いまは、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地である▼一八七四年（明治七年）に、ここに陸軍士官学校が創設された。戦時中は三宅坂から移った陸軍省、大本営陸軍部、参謀本部などが置かれた。まさに軍の中樞部というべき場所だった。戦争遂行に重要な役割を果たした台地だ▼建物の一つの中に、小さな「記念館」がある。様々な展示物の中には、戦争中の千人針もある。若い人は、見たことがないだらう。防空壕には、最大の建物、一号館の地下の廊下、売店の横から入る▼この建物は一九三七年（昭和十二年）に陸軍士官学校本部として建てられた。戦時中に陸軍省などが入り、今は陸上自衛隊東部方面総監部などがある。三島由紀夫が自決した部屋もある▼戦時中だけでなく戦後の出来事をも生々しく思い出させる建物である。極東軍事裁判の法廷となつた講堂が残っている。裁判についての見方は様々ならうが、ベージュ色の三階建ての一号館を見ていると、これこそ本格的な戦争資料館として利用するにふさわしい、と思う▼若い人々に現代史を知ってもらいたい。それには「現場」に立つのが最善だ。「平和祈念館」を新築するより、戦前、戦中、戦後の生き証人である一号館を役立てればよい。これを取り壊すとは、あまりにももったいない。再考し、内外の人々が学べる場所にしてはどうだろう。

朝日新聞

九三年九月一六日

# 日吉台地下壕保存の会

## 第6回総会

1994年度日吉台地下壕保存の会

運営委員・会計監査候補者

会 長	鮫島	重俊
副会長	薄井	芳夫
"	田辺	和男
"	東郷	秀光
事務局長	寺田	貞治
幹 事	谷	栄
"	石田	誠吾
"	加賀谷	欣之助
"	小園	優子
"	茂呂	秀宏
"	佐相	康雄
"	谷藤	基夫
"	馬瀬	昌徳
"	亀岡	敦子
"	馬養	貞子
"	白鶴	邦子
"	喜田美	登里
"	橋本ミ	チ子
"	足立	英宣
"	岡上	そう
"	林	ちづ
"	中沢	正子
"	大西	章
会計監査	森山	高行
"	天野	喬子
顧 問	永戸多	喜雄
"	秋本	謙三
"	田辺	昇
"	佐藤	林平

四月一六日午後、慶大日吉・藤山記念館にて第六回総会が開かれた。冒頭の鮫島会長挨拶では、昨年度の慶大との非公式の会見を中心とした保存についての動きが語られ、締めくくりの挨拶に立たれた東郷副会長からは、「動きの活発でない自分のような普通の者が保存にかかわるところにこの会の意義がある」と言う趣旨のお話があり、参加者の心に灯をともされて、閉会となった。

## 1993年度決算報告(案)

(単位は円)

	1993年度予算	1993年度決算	備 考
収入の部			
会 費	372000	521600	
カンパ	0	31154	
利息	0	12500	
事業益	0	304667	
繰越金	837592	837592	
合 計	1209592	1707513	
支出の部			
会議費	20000	17621	各種会費
事務費	40000	47634	事務用品
印刷費	700000	633994	会報、パンフレット等
通信費	240000	191176	会報その他郵送代
資料費	50000	31803	資料集等
謝 礼	80000	40980	講師・調査等
交通費	30000	58800	全国交流会参加等
予備費	49592	309584	印刷制作費・賛同金
合 計	1209592	1331592	
差引残高計	0	375921	

以上の通り報告します。

日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印

1994年4月8日

この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印  
 会計監査 天野喬子 印

~~~~~  
 表題の字は当日黒板にはりだした題字でワープロがえがきだした大文字を縮小しました。

## 1993年度活動報告(案)

旧海軍連合艦隊司令部の地下壕跡を、戦争と平和を考える原点として、また、後世に伝える貴重な遺産として永久に保存するため、保存をすすめる会が発足してから満5年がたち、第6回総会を迎えました。

この間、私達の運動は確実に前進してまいりました。現在までに登録された会員の数は、個人619名、団体5になります。運営委員会1回、幹事会12回開催しました。会報は、5回発行しました。

保存の会の具体的活動としては、昨年4月の総会の時、カンボジアの難民の方と国際保健協力市民の会代表の方に来て頂いて、「カンボジアと、日本の国際貢献をめぐる」パネルディスカッションを行いました。5月に日吉台地下壕の小冊子を発行、7月に蟹ヶ谷の地下壕の見学会を開催、7月31日～8月2日に全国交流集会在奈良県で開催され幹事3人が参加しました。また、7月に旧登戸研究所の調査研究している人たちと共に、第2回平和のための戦争展実行委員会を結成し、2月の実施日までに8回の実行委員会を開きました。

戦争展のイベントとして、12月に旧登戸研究所、1月に日吉台地下壕の見学会を行いました。戦争展は、横浜市と横浜市教育委員会の後援を得て、2月9日～13日の5日間、大倉山記念館で、前回よりも一層充実した展示ができ、大雪にもかかわらず延べ1800余人の来館者があり、成功裡に終わりました。アンケートによると、この戦争展の評価は高く、私達の運動への期待の大きいことが伺われます。松代大本營の話は私達の運動の参考になり、戦争体験者の話は戦争の非情さ・残虐さが余すところなく語られ、改めて平和の尊さと私達の運動の重要性を痛感しました。

各種団体の地下壕見学会は、「品川平和のための戦争資料展実行委員会」「川崎市の小中高の先生方」「慶應生協学生委員会(2回)」「ピースサイクル」「平和と文化を守る会」「豊島区郷土資料館」「横浜市高校教職員組合」「元海軍軍人の会(横浜水交会)」「川崎高校の先生と生徒」「慶應普通部歴史研究会」「のむぎオープンスクール」「新吉田小学校の先生方」「横浜市史編集室」などの団体からの申込があり、延べ500名近くの人々を案内しました。

新聞やテレビなどのマスコミにも、戦争展のことを含めて例年同様、何度も取り上げられました。調査活動では、旧海軍関係者や地元の方からの証言が寄せられ、新たに判明したことが幾つかありました。

地下壕の保存については、要望書を県や市に提出してから1年以上たった昨年7月、市から「史跡として保存し、見学できるよう整備することは困難である」との回答がありました。1993年度より幹事5名が、港北区民会議委員として区民会議に参加することになり、機会あるごとに保存についての理解を呼びかけています。少しずつ区や市の理解も増してきたように思いますが、まだまだ壁の厚さを感じます。慶應義塾については、会長と事務局長が2人の理事と非公式に会談したところ、関心も深く、理解を示してくれました。

最近、全国的に戦争の遺跡の保存や平和館の建設の運動が起っています。沖縄の南風原町では、1989年に南風原文化センターが建設され、沖縄戦の常設展示場が造られました。さらに1990年には「南風原陸軍病院壕」を文化財に指定しました。岐阜市では1993年に「岐阜市平和館をつくる会」が結成され、松代でも平和館の建設へ向けて動きだそうとしています。このような全国的な運動の高まりの中で、私達の運動も希望が見えてきたように思います。以上で1993年度の活動報告を終わります。



## 1994年度活動方針(案)

昨年、細川政権が誕生し、日本の政治は新たな段階を迎えました。また、内戦や局地戦争は世界の各地にみられ、紛争の芽も絶えません。いつ日本も世界も激しく流動化するかも知れません。

私達は、世界的な視野に立った平和の構築と共に、身近なところで日本の過去の戦争の実態を学び、一人一人の心の中に平和の尊さを呼び起こし、再び悲惨な戦争を起こさないようにしていかなければなりません。そのために、残された数少ない貴重な戦争の遺跡を、戦争と平和を考える原点として後世に残すために、私達は更なる努力が必要かと思ひます。もちろん、地道な調査活動を精力的に進め、さらに戦争の実態を追求していく努力もしていかなければなりません。

また、横浜市には、川崎平和館のような戦争の実態を学習する所がありませんので、地下壕の保存と共に平和館または平和資料館の建設の運動も進めていく必要があります。

来年は、第2次世界大戦の日本の敗北から50周年になります。それに向けて、私達は日吉台地下壕の保存運動を盛り上げ、県や市、慶應義塾当局に対し、陳情その他、効果的な対策を打ち出し、保存の確証を得たいと思ひます。

第3回平和のための戦争展は、できれば慶應義塾日吉キャンパスで開催し、慶應義塾の教職員や若い学生にも関心を持っていただき、保存への理解を深め、地域の人々にもアピールして、世論を盛り上げていきたいと思ひます。今年度も御支援、御協力の程をよろしくお願い申し上げます。

以上で運動方針案の説明を終わります。

## 1994年度予算(案)

(単位は円)

|      |        |            |      |        |         |
|------|--------|------------|------|--------|---------|
| 収入の部 |        |            | 支出の部 |        |         |
| 会費   | 360000 | 360人*1000円 | 会議費  | 20000  | 各種会費    |
| カンパ  | 0      |            | 事務費  | 60000  | 事務用品等   |
| 利息   | 0      |            | 印刷費  | 100000 | 会報その他   |
| 事業益  | 0      |            | 通信費  | 300000 | 会報等郵送代  |
| 繰越金  | 375921 |            | 資料費  | 50000  | 資料集等    |
|      |        |            | 謝礼   | 50000  | 講師、調査等  |
|      |        |            | 交通費  | 60000  | 交流会、調査等 |
|      |        |            | 予備費  | 95921  | 賛同金等    |
| 合計   | 735921 |            | 合計   | 735921 |         |

〔補足説明〕収入の部の会費収入は、1993年度の会費納入者が360人だったので、  
 $1000円 \times 360人 = 360000円$  とした。

連載

日土ロム地下壕  
 当時の関係者の  
 思い出山証 5

## 土地の買収

突然、土地を買収された地元の方々の話です。

ききて・寺田貞治

★K1氏・箕輪

昭和一九年の初め、安立理事官という人がやってきた。

この安立氏に屋敷の奥のほう二千坪を一万六千円で強制的に買収された。「売らないと非国民だ」といわれ、強制的に印を押させられた。当時海軍は威張っていた。

★K2氏・箕輪

一九年の末頃、突然、屋敷に測量にきた。しばらくして「海軍に印鑑を持って来い」

と呼出された。「軍が使いたいから土地を買上げる」といわれ、仕方なく印を押してきつた。当時坪二円で買上げられ、家を山の麓から、外側に移された。乱暴な移動のため、家ガタガタになって住めなくなり、近くの大聖院に厄介になっていった。

★M氏・日吉本町

地下壕を掘るため、海軍か

らの要請によって、内務省に土地を強制的に買上げられた。坪一円位だったのではないかと、内務省の役人が一軒一軒歩いて、「これだけ買上げる。家を山の麓から移動させるので住んでいる人は出ていくように」といわれた。土地は何畝いくらという単位で買上げられた。家屋が移転させられた家は、日吉本町で五軒程ある。トビ職などがコロで家を引張

って移動させた。

★A1氏・宮前

地下壕を掘るので、家を山根（山ぎわ）から離れた所に移転させられたが、補償はなかったようだ。

★A2氏・宮前

土地を海軍に測量されたが買上げられなかった。

（生協ニュース教職員版第四九号より抜粋転載）

## 両都に空地帯

東京 空襲の被害を局限

廿三地区を指定し

## 近く建物除却

関係者だけに圖面縦覧

## 初疎開命令 東京と名古屋へ

朝日新聞に見る日本  
 の歩み昭和一七  
 一九年より  
 一八八三年三月三〇日  
 一九年一月二六日  
 の見出し

第二回松軒事入出報告

三月二五日一八時

慶応高校地学教室

報告

一、二月二六日新吉田小の先生方の地下壕見学会一三名参加

二、同二七日登戸研究所見学会一〇名参加

三、同二八日大倉山の沢村氏に、寺田、岡上が聞き取り調査。近くの海軍図書倉庫跡地を見学

四、三月五日ピースサイクル主催の会で地下壕の講演。寺田。

五、同一日運営委員会、総会について打合せ。鯨島、寺田、白鶴、亀岡、喜田出席

六、同二五日幹事会と発送

七、三〇日横浜市史編集室職員

の地下壕見学会予定

八、同三一日運営委員会予定

九、四月五日新横浜懇話会で地下壕の講演予定。寺田。

一〇、同一六日第六回総会予定

### 議事

一、運営委員会、総会について

二、写真パネルの貸出しについて

\*平和のための戦争展湘南実行委員会より、日吉台地下壕と登戸研究所の写真の貸出し依頼があり、一回につきそれぞれ五千円戴くことになった。

三、朝鮮人強制連行強制労働について考える会第五回全国集会（松本市・七月三〇日）ののための賛同金

\*五千円を送金

松戸市争い△△却却出口第一回五月一〇日一八時

### 日吉地区センター

#### 報告

一、四月三日相模田名高校社会科研究会地下壕見学会

一〇余名参加

二、同八日会計監査

三、同一六日第六回総会三〇名参加

四、五月九日慶応生協学生委員会地下壕見学会三〇名

五、同一二日慶応高校三年M組の地下壕見学会予定

六、同一七日慶応大白井ゼミの地下壕見学会予定

七、六月六日神奈川生協港北支部平和委員会地下壕見学会予定

八、同一一日緑区小・中学校教職員の地下壕見学会予定

九、同一五日網島地区センターふれあい教室の地下壕見学会予定

一〇、同一九日法政二高・清

美学園高・相模工大付属高の歴史研究会の地下壕見学会予定

一、同二五日慶応生協教職委員会の地下壕見学会予定

二、朝鮮人強制連行真相調査団の地下壕見学会予定

三、一九日ピースサイクルの地下壕見学会予定

議事

一、今後の活動について

\*事務局体制

渉外：寺田

庶務：亀岡、馬養

書記：喜田、橋本

会計：白鶴

会報：中沢、林、大西、岡

上

発送：幹事全員

\*保存運動

ア、五〇周年にむけて考える

イ、陳情署名はどうか

ウ、県・市などの歴史館の動き

き

エ、慶応への働きかけ

オ、写真展を銀行などで小規模に行なう

カ、写真パネル輸送の梱包

二、会報二八号発送について

\*六月九日予定

お願

一九九四年度の会費をお送り

いただきました、振込用紙を同封しますので、よろしくお願

いたします。すでにお納め

下さった方有難うございました。

何か書いて

みませんか？

個人で調べていたりして、

会員の方に読んでもらいたい

ものがありましたら、ご遠慮

なく原稿をお送り下さい。

住居の近くの遺跡など一行

のコメントでも結構です。